

愛媛大学ピア・サポート活動証明書

CERTIFICATE

氏 名

(学部・学生証番号)

上記の者が、ピア・サポートに必要とされる知識、スキル、態度等に関する学びを活かし、愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア (通称「SCV」) にてボランティア活動に従事し修得した成果について、下記のとおり証明します。

〈活動の概要〉 [活動の期間] 令和 年 月 から令和 年 月 まで (延べ 時間)

ESMO (愛媛大学メンターズ) に所属。新入生の大学生活移行支援、夏期オープンキャンパスでのキャンパスツアーの実施、未来の愛大生である中高生を対象に進学説明会等の企画を企画立案実施した。2回生からの1年半は、代表として団体の活動をマネジメントした。特にコロナ禍の活動であったため顧問教員への相談を密にしたほか大学事務局との協力を重ねたことで、情報収集・分析力、適切なコミュニケーション力、多様な人との協働力等の力を身に付けることができた。また、メンタリングをつうじて、メンターから私を形容する言葉として「寛容」をプレゼントされた。今後は、培った「背景を読む力」を活かし、問題の本質を捉え、様々な課題解決に貢献したいと考えています。(310文字)

〈学びの成果〉

学習科目等	結果
相互理解を深めるコミュニケーション実践学	秀
相互学習を促す形式的フィードバック実践学	秀
外化を促す形式的フィードバック実践学	優
SCVでの60時間以上の活動	達成
メンタリング(1時間/回、全6回)	実施済
学生支援センター主催セミナー	受講済
その他の学び	2件有

備考1 学生支援機構学生支援センター主催のセミナーには、「自己理解」「他者理解」「傾聴力」「思考力」「プロジェクト・マネジメント」「情報処理」がある。

備考2 「その他の学び」とは、ピア・サポート力の涵養に繋がったと自身で評価する科目を充てる。

〈愛大学生コンピテンシー修得状況〉



備考3 コンピテンシー修得度は、メンタリング後の自己評価

令和 年 月 日

愛媛大学教育・学生支援機構

機構長 八尋 秀典

「愛大学生コンピテンシー」各能力の解説

【具体的な力1】必要な情報を収集・整理できる

必要な文献・資料を読んだり、実験や調査、観察を行うことによって、知識の材料を収集し、整理する力のことです。インターネットの普及によって、情報を収集することが容易になりました。その一方で、膨大な情報の中から、正確で、質の高い情報を収集する力を身につけることが求められます。そして収集した情報を、きちんと整理することで、様々な場面で活用することが可能になります。

【具体的な力2】個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる

収集・整理した情報や授業を通じて得た知識、習得した技能を相互に関連づけて、状況に応じて使いこなせるようにすることが求められます。実験や実習、調査や観察、文献講読など単に断片的に行うだけでは、本当の意味で知識や技能を獲得したことにはなりません。学んだことを自分の中で相互に関連づけ、可能な限り体系化することによって初めて、それらを習得したと言えます。

【具体的な力3】習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる

習得した知識や技能が本当の意味で自分のものとなったと言えるのは、それを自分の中できちんと体系化し、適切に表現できるようになった時です。分かっているけれども表現できないのでは、本当の意味で分かったとは言えません。自分が得た知識を基に、論理的な筋道を立てて、相手が理解しやすい適切な方法で表現する力が求められます。この力を身につけることが出来て、自分の学習の成果が統合されたと言えます。

【具体的な力4】広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる

様々な情報を収集・整理し、それを相互に関連づけ、広い視野から論理的に考えて、対象を分析・解釈します。この力は知識や技能の運用と一体化して働くものです。例えばクリティカル・シンキングとは、既存の学問的知識の体系や枠組みも考慮しながら、客観的根拠に基づいて対象を多面的に考察し、論理的に思考することです。こうした力を身に付けることによって、他者を納得させることが出来るようになります。

【具体的な力5】客観的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる

(例：意思決定・判断力/課題探究・発見・解決力)

学問研究においてはもちろんのこと、社会生活においても、私たちは常に「意思決定」を求められ、「判断力」を発揮しなければなりません。そして、自立した個人として生きるためには、意思決定の根拠をきちんと認識し、客観的に正当なものであることを示すことが求められます。そのためには、自分の置かれている状況を正しく認識し、そこにある課題を見つけ出し、その課題を解決する方策を考え出す必要があります。

【具体的な力6】様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる

グローバル化が進展する現代社会において、様々な文化的背景を持った人々が、チームを組んで課題に取り組むということは日常化・一般化してきています。そうした状況に柔軟に対応するためにも、正確な日本語運用能力や外国語運用能力、ビジネス・マナーといった狭義のコミュニケーション・スキルの獲得のみならず、知の運用能力や思考・判断力も身につけながら、適切な対話や討論を行う力が求められています。

【具体的な力7】目的達成のために多様な人と協働できる

個々人が自己を実現するためには、多くの人と互いに協力し合って、協調し、チームを組み、適宜リーダーシップを発揮し合いながら目的を達成していくことが必要です。こうした力は机上で身につけることは出来ません。実際に多様なメンバーでチームを編成し、その中で様々な活動を行い、対話・討論の力やチームワークを発揮しながら目的を達成するという経験を数多く重ねることが必要です。

【具体的な力8】自らの個性や適性を活かして行動できる

個々人が自己を実現するためには、まず自らが置かれている社会的状況の中で、自分自身の個性や適性を十分に理解することが大切です。そして、自分には何ができるのか、何がしたいのか、何をすべきかなど決断していきます。そのために最も重要な営みが「振り返り（リフレクション）」です。自身の経験や学んだことを振り返ることで、深い自己理解が促され、そこを核としながら主体的に行動していくことが可能になります。

【具体的な力9】社会的関係の中で自分の行動を調整できる

この力は「具体的な力8」と対になっています。自分の個性や適性を見極め、行動する力を獲得するだけでは不十分です。人は社会的存在であり、社会（他者）との関係の中で自分の能力を最大限に発揮していかなければなりません。社会には様々なルールや制約があり、自分が所属する組織や集団においても同様です。限られた資源や制約の中で、所属組織のルールを遵守・順応し、自分の行動を調整していくことが求められます。

【具体的な力10】他者を理解し、他者のために役立つことができる

組織や社会の一員として生きていくためには、まずはそのメンバーとして共に生きる人たちを理解し、互いに助け合うことが必要です。そして、自分や他者を理解するだけではなく、他者に役立つためには何ができるか考え、行動を起こすことが大切です。愛媛は、お遍路さんたちを「お接待」するという伝統を持つ地です。たとえ小さなことでも、他者の幸せのために行動できる心と実践力を身につけることが求められます。

【具体的な力11】集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

集団や組織は、構成員それぞれが責任と自覚を持って行動し、役割を果たすことによって初めて機能します。根拠に基づき状況を把握し、他者との対話や協働を行いながら、課題を見極め、解決策を考え、行動に移していきます。そのことによって、所属している集団や組織をより良いものにしていくことができます。その結果として、自分が所属している社会や組織、そこに所属している自分自身に対して誇りを持てるようになります。

【具体的な力12】地域や国内外の課題を自ら考察し、解決に向けて行動できる

社会的存在としての人間が、現代社会において果たすべき役割を改めて提示したものです。地域や国内外にはさまざまな課題があります。そのような課題に向き合い、広く深く考え、解決に向けて自分なりにできる最善を尽くす。そうした志と力を身につけることによって、どのような地域・社会においても最良のパフォーマンスを発揮することが可能になります。